

熊本保健科学大学 DX 推進基本計画

2025. 10. 1

1. DX 推進に向けた本学を取り巻く環境

(1) デジタルネイティブ世代の大学進学

コンピュータやタブレットを使って学習してきた世代の大学入学に対応した整備が必要である。

1人1台端末導入 小・中学校 100%、高等学校 85% (ベネッセ調査, 2023)

(2) 医療現場での医療 DX の進展

「全国医療情報プラットフォーム」の創設、電子カルテ情報の標準化（全医療機関への普及）、「診療報酬改定 DX」等が進展している。

(自民党政務調査会「医療 DX 令和ビジョン 2030」, 2022)

(3) リカレント教育における社会人等多様な学修者のニーズ

リカレント教育は、時間・場所等の制約を受けないオンライン学習が基本で、社会人の6割が「インターネットなどによる授業ができるシステムの整備」を大学に求めている。

(文部科学省「社会人の学び直しの実態把握に関する調査研究」, 2019)

(4) 限られた人員体制のもとでの学内業務の更なる効率化と生産性向上

限られた人員体制において、身近な業務のデジタル化や自動化、ペーパーレスの推進を通じた学内業務の効率化やそれに付随した既存システムの見直しにより、生産性の向上を図る。

(5) データ収集による教育・研究・経営への戦略的な活用

本学の現状と課題をデータから浮き彫りにし、教育・研究・経営分野における対策や計画の策定に戦略的に活用する。

2. 基本方針

この基本方針は、本学を取り巻く環境を踏まえ、DX 推進に関する当面の基本的な考え方や推進体制を定め、DX 推進により学生、教職員の満足度向上や業務の効率化、高度化を図り、学生や社会のニーズに応じた業務・経営の改善の促進や新たな価値の創造、さらには本学の魅力 UP に資するものである。

「保健医療 × DX 熊保大が創造するヘルスサイエンスの未来」

(1) データやデジタル技術の活用により、教育、研究の質の向上を図る

データやデジタル技術の活用により、学修者本位の教育の推進や、ハイブリット授業等の多様な学修を展開するとともに、研究活動の効率化、高度化を図り、研究の促進、充実を図る。

(2) DX に適応できる医療人材を育成する

コンピューターやデータサイエンス・AI を活用して問題解決を自ら志向し、生涯にわたり保健医療の各専門分野で活かせるデジタル医療人材を育成する。

(3) 「学びやすい」「働きやすい」「便利」を実現する

学内におけるデジタル化、自動化、ペーパーレスを推進し、スピード化、効率化、正確化、可視化、コスト削減を図り、「学びやすい」「働きやすい」「便利」な環境を実現する。

(4) DX 推進のため、まずはできることから迅速かつ計画的に推進するとともに、そのために必要な基盤、体制を整備していく。

上記(1)から(3)を実現するため、まずはできることから迅速に推進する。また、そのための情報基盤や人材の育成確保を含めた体制を計画的に整備していく。

3. 「教育 DX」「研究 DX」「業務・経営 DX」「DX 基盤整備」の取組み方針

以下、教育、研究、業務・経営、基盤整備の 4 分野ごとに方針及び具体的な取組みの内容を示す。

(1) 教育 DX

<方針>

- ① 多様な学修の実現（リカレント教育、生涯学習、大学連携等）
- ② 学修者本位の教育の実現
- ③ 誰でもどこでもいつでも学べる環境の整備
- ④ デジタル医療人材の育成

<具体的な取組み> ★重点的な取組み

- ① BYOD の導入（推奨端末・基準の明確化）★
- ② アクティブラーニング、課題解決型学習（PBL）の展開・電子教科書の導入★
- ③ 学習コンテンツ、オンラインツールの利活用
- ④ 遠隔授業を取り入れたハイブリット授業の展開
- ⑤ リカレント教育への展開
- ⑥ manaba 等の LMS の活用
- ⑦ 修学データに基づく個別最適な学びの実現
- ⑧ DX に適応できる医療人材の育成
- ⑨ 数理・データサイエンス・AI 教育の推進
- ⑩ VR、シミュレーター等による模擬体験型学習の展開

(2) 研究 DX

<方針>

- ① オープンサイエンスの流れを踏まえた研究環境の構築
- ② AI の活用を含むデータ駆動型研究のための環境の整備
- ③ プログラミング人材の育成、確保

＜具体的な取組み＞ ★重点的な取組み

- ① 研究情報管理システム (GakuNin RDM) の導入・活用 (シングルサインオンの整備) ★
- ② AI 利活用に向けた環境の構築★
- ③ 研究データの管理・共有化
- ④ オープンサイエンスの推進
- ⑤ データ駆動型研究の推進
- ⑥ プログラミング人材の育成・確保
- ⑦ 大規模データ収集のための大学・企業間連携体制の構築

(3) 業務・経営DX

＜方針＞

- ① 改善効果の高い業務システムへの転換
- ② データ活用による戦略的な大学運営
- ③ どこからでもアクセスできる環境の整備 (リモートワーク)

＜具体的な取組み＞ ★重点的な取組み

- ① 電子決済、電子申請、会議資料、議事録等のデジタル化、自動化、ペーパーレスの全学的な推進★
- ② 手作業、手入力等の業務フローのデジタル化★
- ③ RPA、チャットボット、AI の活用による定型業務の自動化
- ④ IR データの経営面での活用
- ⑤ リモートアクセス環境の整備

(4) DX 基盤整備

＜方針＞

- ① 安全・安定した DX 基盤の構築
- ② DX 計画の推進に寄与できる人材の育成・確保
- ③ 学内の DX 推進体制の構築
- ④ 計画的な推進に向けた予算枠の確保

＜具体的な取組み＞ ★重点的な取組み

- ① 学内全てにおける Wi-Fi 環境の整備及び業務系回線との分離★
- ② DX 人材の育成・確保、DX 推進体制の整備★
- ③ 教職員を対象とした技術支援・教育支援体制の整備 (教職員対象スタサ・PC ハルプデスク)
- ④ ソフトウェアで複数の仮想環境を生成する基幹ネットワークの冗長化
- ⑤ 高速ネットワーク引き込みや高速対応通信機器導入などによるネットワークの高速化

- ⑥ 共有ファイルサーバのクラウド化
- ⑦ 新たな技術についての情報提供や実証実験の実施
- ⑧ 「情報セキュリティポリシー」に基づく情報セキュリティへの対応

4. 基本計画推進に向けた今後の進め方・体制等

(1) 今後の進め方

- ① 当該基本計画については、大学運営協議会、ボードミーティング、常勤理事会等で意見収集、調整を図る。
- ② 実施計画を毎年度策定し、予算、体制等の確保を行い、できるところから計画的かつ着実な取組みの推進を図る。
- ③ 資金確保については、国の補助金、民間からの支援等を積極的に活用する。

(2) 計画推進に向けた体制の整備 (別紙参照)

- ① DX推進に係る情報収集・周知啓発、学内の総合調整、実施計画の全学的な推進を図るため、学内の推進組織として「DX推進室」及びその事務局として「DX推進グループ」を設置する。
- ② 教育、研究、業務・経営、基盤整備の4分野ごとに関係の会議体とDX推進室（仮称）とが連携して、計画推進、管理を行うとともに、大学運営協議会、常勤理事会等において必要な評価を行うことで、PDCAサイクルを回していく。

「教育」 : 教育改革推進会議

「研究」 : 学術研究会議

「業務・経営」 : 大学運営協議会（大学事務局）

「基盤整備」 : 大学運営協議会（大学事務局）

DX推進及びPDCA体制

